

「かながわ教育フォーラム小田原大会」の結果概要について

- 1 趣旨 「かながわ教育ビジョン」第6章に基づき開催した「かながわ人づくりコラボ2013」における今後の議論の視点を踏まえ、かながわ教育ビジョンの第4章、第5章の検証と改定に向けて、県民との論議を通じて、推進過程を振り返り、課題解決に向けた今後の方向性を明らかにし、教育論議を深める。
- 2 テーマ 「家庭教育・地域協働を考える」
- 3 日時 平成26年1月18日(土) 13時15分から16時30分まで(12時45分開場)
- 4 会場 神奈川県立小田原高等学校 視聴覚教室ほか
- 5 参加者 215名
- 6 結果概要

(1) 基調提案 日本大学 佐藤晴雄教授

- 「家庭教育に関する意識調査」を実施したところ、「しつけ」に関する認識について、教員と保護者の間に大きなズレがあるとの結果が出ている。例えば、「我慢する態度」の「しつけ」について、保護者の約9割が「家庭で行なうべき」並びに「家庭で行なっている」と回答しているが、教員で「家庭で行なっている」との回答は5割程度にとどまっている。保護者は家庭で「しつけ」をしているつもりなのかもしれないが、学校では、「学校で行なうべき」よりも過剰に「しつけ」を行なっている状況になっている。このように、家庭と学校とで認識がズレている可能性があることが、様々な場面で衝突を生む原因の一つになっているのかもしれない。
- 本日の議論に当たって、「家庭教育・地域協働を考える」を議論するための視点の一例として「うめる、ただす、つくる」を提起する。1点目の「うめる」とは、足りないところを補ってくれる、ということ。地域が学校に関わり、学校の機能を補っていると同時に、生涯学習の新しいスタイルになる可能性もある。
- 2点目の「ただす」とは、問題解決を図ること、ゆがみを修正すること。学校評議員制度では、学校の中で問題があったときに、解決に協力する。また、学校運営協議会(コミュニティ・スクール)も同じである。
- 3点目の「つくる」とは学校、家庭、地域が協働して新しいものをつくること。例えば、子どもの居場所づくり。学校の中には、学習指導のチャンス을設けているところもある。
- 「うめる、ただす、つくる」という視点を持って、これからの議論を深めてほしい。



(2) ワークショップ

「家庭教育・地域協働を考える」について、高校生・保護者・教職員・県民により、次の5つのテーマについて、ワークショップを行い、グループごとに報告を行った。

テーマA 「家庭教育の役割と責任について考える」

B 「期待する生涯学習の取組みとは」

C 「地域協働による学校づくり（コミュニティスクール）への期待とは」

D 「スポーツ・文化芸術振興の未来像とは」

E 「郷土神奈川の歴史と伝統文化の未来への継承に向けて」

テーマA 家庭教育の役割と責任について考える

課題① 家庭での子育て・家庭教育で担うべき役割（家庭教育の内容）とは具体的にどのようなものであると考えるか。

（主な意見）

学校、保護者、生徒の立場から見た課題

- ・学校：家庭の「しつけ」について、学校での生活を家庭（保護者）に見てもらい、溝を埋める。
- ・保護者：親によっても「しつけ」の価値観が違う。親にも教育をすべき。
- ・生徒：親が関わりすぎている（甘やかしている）。親の愛情をかけなさすぎてもいけない。

高校生の親の悩み

- ・発達段階に応じて対応も変えるべき（親の学び）。
- ・高校生になると会話が少なくなる。

課題② 子育て・家庭教育に不安を抱き、悩みを抱えている保護者を支援するには、具体的にどのような方法が考えられるか。

（主な意見）

- ・生徒と保護者の対話の場を設ける（学校だけでなく、地域での講演を活用）。
- ・様々な世代によるランチミーティングのような形態で行ってはどうか。
- ・行政がもっと関わるべきである。

テーマB 期待する生涯学習の取組みとは

課題① 生涯学習社会の構築に向けて、地域の教育資源（人的・物的）をどのように発掘し、活用に供することができるかと考えるか。

（主な意見）

- ・生涯学習を行うきっかけが減ってきている（図書館や公園を増やす）。
- ・経験者と交流する機会づくり（先生と子ども、先輩と後輩、子ども同士でそれぞれの知識の交流を行う）。
- ・得たものを更に深める（OB・OG会等を通して生涯続けるようにする）。
- ・人と人とのつながりが大切である（地域や会社、高齢者など、あらゆる意見を持つ人、多趣味な人と関わる）。
- ・斜めの関係（縦横の関係から斜めの関係）。

課題② 神奈川県として県民の生涯学習への取組みを活発にするにはどのような方法が考えられるか。

(主な意見)

- ・公民館などの公共施設をより利用しやすくする（小学生なども利用しやすい方法を考える。例えば利用割引など）。
- ・歴史や文化の面から、神奈川県東西の連携のきっかけをつくる。
- ・学校をうまく活用する（多くの人とふれあう場を設ける）。
- ・地域とのつながり（あいさつ、今回のようなフォーラムなど話合いの場）。

テーマC 地域協働による学校づくり（コミュニティスクール）への期待とは

課題① 学校づくりにとって地域の参画・協働はなぜ必要なのか、その理由をどのように考えるか。

(主な意見)

- ・PTAの立場として、地域の防犯（パトロール、声掛け、有事の際の協力）に必要であるから。
- ・地域として、開かれた学校により、教育内容が分かる、校内の安全管理が図られる、教員と地域の様々な立場の人との人間関係の構築ができるから。
- ・生徒として、異年齢の方からどう見られているかを知ること、自分の行動を見直す効果があるから。
- ・学校として、授業や部活でのゲストティーチャーの確保は必要であるから。
- ・家庭教育（しつけ等）の格差を学校と地域が参画することにより埋めることができるのではないか。

課題② 地域との協働を推進するため、具体的にどのような方法が考えられるか。

(主な意見)

- ・防災訓練での学校と地域との協働による取り組み。
- ・地域人材（ゲストティーチャー）等のリストを作成して、教科や職場体験などで活用する。
- ・学校行事に地域の方が参加する（バザー、文化祭、パトロールなど）。
- ・校内に地域が使用できるスペースを設置する。
- ・忙しい学校現場を地域がニーズに応じて支援する。
- ・異世代間の交流の場を設ける。
- ・自己実現の場を設ける（生きていく上で必要な教育の教材[農業体験、職業体験など]）。

テーマD スポーツ・文化芸術振興の未来像とは

課題① 県民が行うスポーツ活動を今まで以上に充実させていくためには、どのような方法が考えられるか。

(主な意見)

- ・運動する機会の確保（部活動による運動量の違い、スポーツができる学校行事を増やす、学生スポーツの大会数を増やす）。
- ・スポーツに対する関心（部活動の大会などを増やし、大会に見に来てもらえる人を増やすようにする）。
- ・組織の維持（指導者の育成、施設の開放）。
- ・スポーツ施設（予約システムや予約の方法など利用に当たっての改善、施設

の整備・充実)。

- ・予算の確保。
- ・地域の草の根スポーツの活性化(小学生の頃から参加できる環境づくり)。
- ・参加したくてもできない(施設の不足、利用しづらい環境の改善)。
- ・部活動、特にマイナースポーツの部が消滅する傾向がある(原因は、合同チームは上位大会には参加できない、中学に部活がないので続けられない、クラブチームに所属しても進学時の評価に入らない、指導者不足)。
- ・企業の施設を地域に開放できないか。

課題② 県民が行う文化芸術活動を今まで以上に充実させていくためには、どのような方法が考えられるか。

(主な意見)

- ・吹奏楽部や演劇部の発表が校内発表だけで地域の方にはできていない。
- ・生徒は芸術・文化に触れる機会がない(もっと本物に触れる機会を設ける)。
- ・体験、能力の育成を図る。
- ・芸術を身近なものにする(提供したい人、受けたい人をつなぐ仕組み)。
- ・場所、機会の提供(ハード、ソフトの整備、横浜まで行かないと音楽も絵画も本物に触れられない)。
- ・芸術を発信する拠点の設備、機会を充実させる。
- ・学校施設の開放を行う。
- ・家庭で芸術に触れる機会をつくる。

テーマE 郷土神奈川の歴史と伝統文化の未来への継承に向けて

課題① 神奈川の歴史と伝統文化を継承するために、学校教育では具体的にどのようなことに力を入れるべきと考えるか。

(主な意見)

- ・総合的な学習の時間を活用して、神奈川の伝統文化について話を聞くことで学ぶ。
- ・遠足などで伝統文化、伝統的な場所に訪れて体験する。
- ・総合的な学習の時間だけでなく、学校のほかの授業でも地域にまつわる話を交えてもらう。
- ・地域を愛する。
- ・文化の生まれてきた過程を伝えていく。
- ・小学生、中学生、高校生で学んできた文化を高校生は中学生に、中学生は小学生に伝え、教えるなどすると、文化を子どもたちの間でも広げることができる。

課題② 神奈川の歴史と伝統文化を全国にあるいは海外にも普及するためには、具体的にどのような取組みが考えられるか。

(主な意見)

- ・ネットなどのメディアを利用して伝統文化を知ってもらう。
- ・動画投稿サイトなどを利用して映像で発信する。
- ・コンテストやアートの展示会を開催する。
- ・修学旅行や伝統文化体験ツアーなどを企画し、神奈川に来てもらう。

- 来てくれた人や、外国の人には、もう一度行きたいと思ってもらえるように「おもてなし」の心を持つ。
- ホームステイなどで外国に行って自ら伝統文化について発信する。
- 伝統文化を後世に伝えていくためにも、今の文化（例えばアニメーションなど）をリメイクするなどバージョンアップしていくことも必要ではないか。
- SNSを使えばもっと発信することができるのではないか。
- 人から人へ直接伝達することが一番大切である。



(3) 教育論議

5つのワークショップでの結果の発表を通して、全参加者がそれぞれのテーマについて話合いの内容を共有するとともに、参加者の意見交換により教育論議を行った。

(主な意見)

- 県立学校の様々な教育活動の質を上げるためには、学校だけでなく、地域社会や家庭教育も一体的に取り組む必要がある。
- 有事の際などに、地域社会と学校が一体的になって県立学校を発展させていくためには、コミュニティスクールの導入が必要であると思う。
- 高校生等が海外にホームステイして、自国の郷土や歴史を発信するためには、郷土に対する愛情や祖国に対する自信と誇りが必要である。
- かながわ教育ビジョンを改定する際には、教育基本法第2条の我が国の郷土を愛する心、愛国心についても書いてほしい。そうすれば、学校教育の中で、それらが身に付くと思う。
- 地域、学校及び家庭の溝を少なくするには、学校に地域を取り入れ、話合いなど行っていくべきである。
- 地域、保護者、生徒及び学校との関わりが重要であると改めて感じた。



今後、教育ビジョンの第4章及び第5章の改定に向けた、点検・検証を進めていくに当たっては、今回の内容も十分に踏まえながら、論議を進めていくことが必要であるとのまとめがあった。

(4) 記念演奏

小田原出身のヴァイオリニスト碓井志帆さんとピアニスト野口裕紀さんとの演奏。
また、県立小田原高等学校弦楽部との共演による演奏を行った。

ヴァイオリニスト 碓井 志帆 (小田原出身)

ピアニスト 野口 裕紀

共演：県立小田原高等学校 弦楽部

(演奏曲)

- ヴィヴァルディ作曲 四季から「春」
- サラサーテ作曲 「ツィゴイネルワイゼン」 ほか

